

2019年
か ぜ ひ か

風光れ

人権のたより 第15号 7月10日発行

三重県立津東高等学校

こんにちは。人権担当の川辺広美です。

新聞の『中日春秋』というコラムの6月29日は、ハンセン病について書かれていました。

元患者の家族五百人以上が、国に謝罪と損害賠償を求めた集団訴訟で、熊本地裁は昨日、国の責任を認め、賠償を命じた。原告側の全面的な勝訴だろう。家族に患者がいると知られたことで、学校でいじめにあったり、職場でのうわさで仕事を辞めなければならなくなったり。会いたくても会えず、互いに助け合うことも難しかった人たちの歴史が、浮かび上がる・・・



もう一つは『もののけ姫』です。宮崎アニメはただ鑑賞して感動を与えてくれるだけでなく、これまで聞こえていなかった残響に気づくこともあります。

この映画の中に出てくる包帯をぐるぐる巻いた人たちは、ハンセン病患者だと思います。宮崎駿監督は、

所沢在住です。東京都の東村山市には、「全生園」というハンセン病患者を隔離・収容した施設があります。よく全生園を散歩されて、患者さんとも交流があると聞いています。「タタラ場」でエボシ御前よって社会的役割を与えられた人々・・・ただ劣悪な状況の中でも生きることを与えられていると私は気づきました。

いわれなき差別と偏見の解消のために「ハンセン病」の知識をしっかり持ってくださいね。らい菌の感染でおこる感染症の一種です。感染力は弱いですが、ノルウェーの医学者ハンセンがらい菌を発見したことから、こう呼ばれています。発病すると皮膚や粘膜がおかされ、顔や手足にあとが残ることもあったので、効く薬がなかった時代は、おそろしい伝染病のように思われていました。実際は感染力は弱いのです。現代は有効な薬が生まれ、治せるようになりましたよ。ハンセン病は、「らい病」や「らい」とも呼ばれていました。病気について正しく理解されていなかった時代、ハンセン病の人たちは地域や社会で差別され、1931年には強制的に療養所に隔離される「らい予防法」という法律まで定められました。

「らい予防法」は1996年に廃止され、国は法の見直しがおくれたことを謝罪しました。そして今回の判決です。これが差別解消の新たな契機となっていくと信じます。「人権室」に『会いたかった』のコミックがありますよ。是非読んでみてください。



